

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市青少年問題協議会
- 2 開催日時 平成30年2月27日(火) 午前10時00分から午前11時15分まで
- 3 開催場所 水戸市役所南側臨時庁舎 3階 中会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
田山喜子, 大関茂, 大津辰夫, 岡田澄子, 岩下智子, 太田元子, 立川力,
後藤通子, 生越達, 水嶋陽子, 松本友子, 隈元崇広, 永田博, 綿引政美, 綿引健,
小泉康二
 - (2) 執行機関
高橋靖, 大澤秀樹, 上田航也, 鈴木雅人
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画(第2次)に基づく, 水戸市の取組について(公開)
 - (2) 関係機関, 団体等の取組について(公開)
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画(第2次)
- 9 発言の内容
(開会のあいさつ, 委員自己紹介)
【会 長】
それでは議事にはいりますが, (1) 水戸市青少年・若者育成基本計画(第2次)に基づく, 水戸市の取組について, 説明願います。

【執行機関】 (資料説明)

【会 長】

ただ今、事務局から、水戸市青少年・若者育成基本計画（第2次）に基づく水戸市の取組について、御説明いたしました。御質問や御意見があればお願いいたします。

また、（2）関係機関、団体等の取組について、皆様の日ごろの取り組みについての御紹介、意見交換もあわせて行いたいと思います。

【___委員】

少年自然の家の食事メニューについては、水戸市の食材を使って提供することを検討はできないか。

また、青少年相談員の街頭補導については、熱心に補導をしていると思うが、相談員に負担ではないのか。

市子ども会育成連合会の行事「子どもフェスタin水戸」については、対象を子どもに限定するのではなく、より広げていった方が良いと思う。

【執行機関】

少年自然の家の食事メニューについては、汁物など具材が限定されていないものについては、その都度、季節の物を入れて提供できるようになっているので、そのほかの具材についても、引き続き地元農家と打ち合わせを進めていく。

街頭補導については、曜日と時間帯で分けてグループ編制をして巡回しており、負担がかかりすぎないようにしている。

子どもフェスタin水戸については、まちなかフェスティバルやたこあげまつりといった大勢の観客が見込める行事と一緒にすることで、幅広い参加を見込んでいる。

【 委員】

相談員は、研修会で、現在の子どもの考え方が、昔と比べて変わってきていることにどう対応するかを学びながら、補導を行っている。

気持ちの部分では負担に感じていない。

【 委員】

駅南の防犯カメラを更新したかと思うが、犯罪の発生状況はどうか。

【 委員】

最近は少なくなってきたが、なくなったわけではないので、発生ごとに対処している。

【 委員】

桜川沿いの橋の下に電灯がついたことで、たむろしている青少年は減ったと実感している。川沿いで挨拶をしながら補導していても、雰囲気は以前と変わってきている。

【会 長】

連携は必要なので、防災危機管理課等とも連携していきたいと考えている。

【___委員】

少年自然の家の事業については、多くの人に参加してもらいたいですが、募集人数の上限は、適切なのか。

また子ども会は、学区で一つの子ども会等、組織を再編成する動きがあるが、いつ頃までに移行するか決まっているのか。

【執行機関】

少年自然の家の事業については、地域に協力を頼んで、農家の方々と一緒に進めている事業もあり、200人以上が宿泊できる施設ではあるが、目一杯である。

例えば、4回シリーズの事業であれば、4回とおしての都合がつかず、参加できないことも考えられるので、日帰りの事業の充実を検討している。

子ども会については、地域ごとの特性があり、これまでの経緯もそれぞれ違うので、市全体で一律の期限は設けていない。

【___委員】

子ども会については、学区で一つにまとまって盛り上げていこうという学区が増えてきた。

異なった年齢の子どもたちが、一緒に活動することで、異年齢間でのつながりができたり、年下の面倒を見ることで養われたりすることも多いので、大事にしていきたいと考えている。

【___委員】

市民センターにおける講座の開催については、今後どのようにしていくのか。

【執行機関】

昨年から家庭教育関係の講座の開催に力を入れ始めた

【___委員】

学校では警察と連携し、年間3回の見回りを実施している。

【___委員】

先日、自治連等と連携し、地域で子どもを育てていくにはどうしたらよいか、講演を開いた。

18歳以上になると、目が届かなくて不安に感じているという意見があった。

【会 長】

行政や学校と接触のない世代との関係については、今後も引き続き検討していきたい

と感じている。

引きこもりやニートについても、相談の窓口をどうするか、どの窓口につなげていくか、対応策を検討していく。

【__委員】

水戸労働局やサポートステーションなどでも支援をしている。

【__委員】

4月にみと児童安全安心サポート会議をたちあげ、児童の交通安全のため蛍光ベストの寄贈を行った。

【__委員】

森林公園や自然の家を会場に「親と子のネットワーク」を開催しており、平成30年度も実施予定である。

【__委員】

子どものネット依存については対策を講じているか。

【執行機関】

総合教育研究所で対応しているほか、学校とも連携して啓発している。

【__委員】

学校独自でも実施している。

【会 長】

本日は、委員の皆様から貴重な御意見を多くいただきまして、ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

【執行機関】（閉会のあいさつ）